# ピクトグラムの改良と活用に向けた取り組み

キーワード：ピクトグラム、運用方法、更新、定着

○野月さや香　白銀真波　川村里沙　山端祐　米田麻紀子　山端悦子
十和田市立中央病院　４階西病棟

## Ⅰ．はじめに

当院では、2016 年にピクトグラムを用いた状態把握について先行研究が行われ、ピクトグラム導入により患者の安静度や援助方法の共有化に効果的であったとの結果が出た。しかし、タイムリーに表示の更新がされなかったこと、カードの入れ替えが難しい、両面テープを使用していたが剥がれ落ちることが多く、いつ誰が更新するのかなどの運用ルールが曖昧だった事や、ベッドから離れて援助を行う場合に確認できないことが課題となり、現在は使用していない。茂木らも「ピクトグラム導入により転倒転落の重症インシデントが減少したが、ピクトグラムが変更されていないなどの意見があり、使用方法や表示の徹底については検討を要する[1)]」と述べている。上記の課題を元に、ピクトグラムを使いやすいように改良し、運用方法を修正することで、患者への対応もスムーズに行うことができ、ピクトグラムの活用につながると考えた。

## Ⅱ．目的

使用しやすいピクトグラムへ改良し、運用方法を決めることで、ピクトグラムが活用できたか明らかにする。

## Ⅲ．研究方法

1．研究デザイン

1）準・実験研究

2．研究対象者

1）4 階西病棟看護師 23 名（病棟師長、研究担当者は除く）

3．データ収集期間

1）令和３年２月 15 日～令和３年５月 31 日

4．データ収集方法

1)アンケートの配布と回収

ピクトグラム使用前後に、資料４、資料５のアンケート調査を行った。アンケートは 5～10 分程度の選択式で無記名とし、記載後は封筒に入れて師長コーナーの回収箱に投函とした。回収箱は平日 8:30～17:00 まで設置し毎日回収した。また、アンケート投函をもって同意が得られたものとした。

2）ピクトグラム

ピクトグラムは、縦８㎝横 5.5 ㎝とし、以前より持ち運びしやすいサイズで作成した。土台とカードホルダーにマグネットを貼り、カードホルダー穴に 50 ㎝のひもを通して持ち運びできるよう改良した。

(1)ピクトグラムはベッドの頭側壁にマグネット付き土台を貼り、マグネット付きカードホルダーを土台に装着し表示する。

(2)車椅子乗車時は看護師がカードホルダーを土台から外し、ひもを車椅子グリップにかけ、トイレ中はトイレドア外側のドアノブにかける。

(3)見守り歩行時は看護師がカードホルダーを土台から外し、トイレ中はトイレドア外側のドアノブにかける。

3）ピクトグラムの更新方法

(1)ピクトグラムの内容が患者の状態と合っているか、日勤帯の回診後にベッドサイドカンファレンスを行い、その場でピクトグラムの表示を変更し、担当看護師が毎日 SOAP に記録する。

(2)夜間に患者の状態が変化した場合、夜勤の看護師とベッドサイドカンファレンスを行い、ピクトグラムの表示を変更し、担当看護師が SOAP に記録する。

4)説明方法

(1)令和 3 年 1 月に研究の目的とピクトグラムとその運用方法についての説明を対象となる病棟看護師へ実施。内容は以下の項目とした(資料 1. 2)。

・ピクトグラムの絵と意味について（資料3）

・使用する患者の判断基準について

令和 3 年 3～5 月に入院中で下記条件に当てはまる患者に使用した（転倒転落アセスメントスコア 8 点以上、認知症せん妄アセスメントシートでリスクありの患者、改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)で 20 点以下）

(2)ピクトグラムの表示方法（場所）と更新方法（カードの入れ替え方法）について実物を用いて説明した。

5. データ分析方法

ピクトグラム使用前・後のアンケート結果を単純集計した。

Ⅳ. 倫理的配慮

1) 4 階西病棟看護師へ研究参加について書面と口頭で説明し、アンケートの提出をもって研究参加への同意を得たものとした。また、個人が特定されないようアンケートは無記名とした。研究に参加しないことにより、不利益を生じることはないこと、アンケート提出後に撤回はできないことを説明した。

2)得られた情報は本研究以外の目的には使用しないこと、他者に口外しないことを書面で説明し、本研究で得られた結果は、院内研究発表や学会発表、学会誌などで公表することも説明した。

3)調査によって得られた個人情報は師長コーナーの鍵付き引出しで厳重に保管し、研究終了時には速やかにシュレッダーによって破棄することを説明した。

4) 本研究は十和田市立中央病院倫理委員会の承認を得て行った。

Ⅴ. 結果

アンケートは 23 名に配布しピクトグラム使用前後とも 19 名の回収（回収率 83%）だった。ピクトグラム使用患者は 41 名であった。

1. 担当していない患者のトイレ対応について、ピクトグラム使用前は「できる」「だいたいできる」が 11 名（57.9%）で、使用後は 16 名（84.2%）と増加した。(図 1)

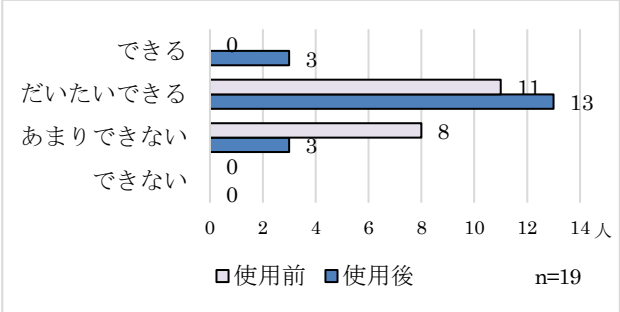


図 1. 担当していない患者のトイレ対応について

「できない」「あまりできない」の理由として、使用前は「介助方法がわからない」が 3 名、「安静度がわからない」が 5 名、使用後は「介助方法がわからない」が 0 名、「安静度がわからない」が 3 名となった。「車椅子に掛かっていない為わからなかった」という回答もあった。

2. 患者の介助を中断せずスムーズに対応できているかについて、ピクトグラム使用前は、「できている」「だいたいできている」が 12 名（63.2%）で、使用後は 11 名（57.9%）とわずかに減少した。(図 2)

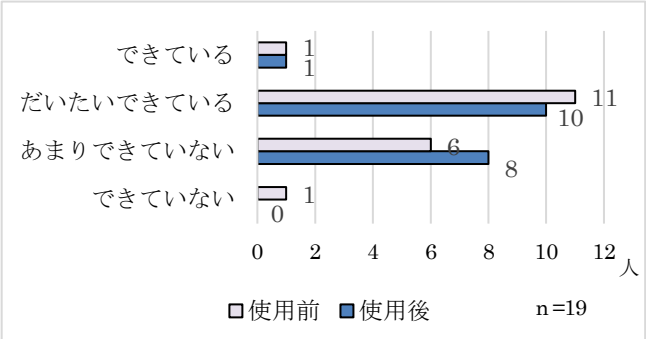


図 2. 実際に患者の介助をスムーズにできたか

「できていない」「あまりできていない」の理由として、「担当看護師に確認した」が使用前 5 名、使用後は 7 名となった。「患者自身に確認した」が使用前 2 名、使用後は 1 名となった。

3. スタッフ全員がピクトグラム対象患者を受け持った。

4. ピクトグラムの表示と実際の介助方法が合っていたかについては、「合っていた」17 名（89.5%）だった。「合っていなかった」理由として「更新されていなかった」と回答していた。

5. 毎日のベッドサイドカンファレンスは、「できた」「だいたいできた」10 名（52.6%）だった。「できなかった」「あまりできなかった」理由として「忘れた」「変更時のみ記載した」「意識が足りなかった」「定着していない」などの回答があった。(図 3)

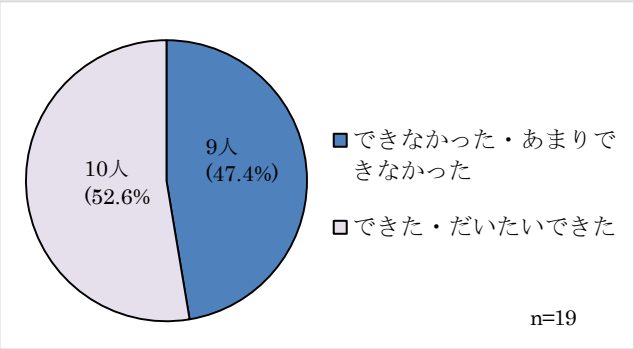


図 3.　ベッドサイドカンファレンスが毎日できたか

6. 介助方法に変更があった場合ピクトグラム更新は、「できた」「だいたいできた」5 名（26.3%）だった。「できなかった」「あまりできなかった」理由として「忙しい」「忘れた」「意識が足りない」「定着していない」などの回答があった。(図 4)

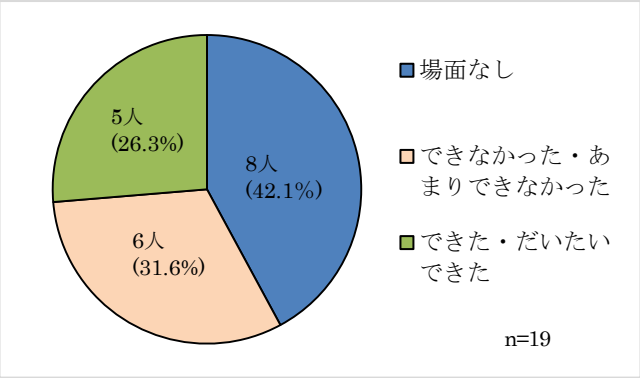


図 4.　介助方法変更時ピクトグラム更新ができたか

7. 日勤帯でベッドサイドカンファレンスをしてピクトグラムを更新することは適切かについて「思う」「だいたい思う」19 名（100%）、理由として「日勤は移乗介助が多い」「患者の情報を共有でき意見を交換しやすい」「安全確保のためには必要」などの回答があった。

8. ピクトグラムを見て介助方法が理解出来たかについては、「できた」「だいたいできた」17 名（89.5%）だった。「できなかった」「あまりできなかった」理由として「わかりやすい」「慣れ始めた」「絵の内容を覚えきれなかった」などの回答があった。

9. ピクトグラムを使用しやすいかについては、「思う」「だいたい思う」19 名（100%）だった。理由として「車椅子に表示出来て良い」「わかりやすい」「危険予防に役立つ」「担当に聞かなくて済む」などの回答があった。

10. 今後ピクトグラムが定着するかについて「思う」「だいたい思う」10 名（52.6%）だった。「思わない」「あまり思わない」理由として「入院時や状態悪化時忘れる」「何回もアナウンスすれば定着する」「全員に使用すれば定着する」「当てはまる対象だけだとぬける」「忙しい」「だいたい受け持ちが対応する」「忙しくて業務が回らない」などの回答があった。(図 5)

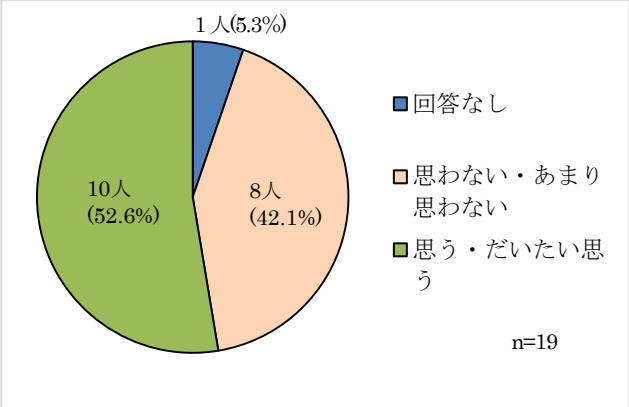


図 5.　今後ピクトグラムが定着すると思うか

## VI. 考察

### 1．ピクトグラムの改良について

日中は離床を促すため車椅子に乗車する患者も多く、ベッドサイド以外での介助が必要となる。ピクトグラムを持ち運びできるように改良したことで、車椅子に掛け使用される場面も増え、「車椅子に表示できて良い」という意見もあり、ピクトグラムの改良は効果的と考える。

２．ピクトグラムの活用について

ピクトグラムの使用後、担当していない患者の介助ができる人が増加した。実際にピクトグラムを全員が使用しやすいと回答していた。しかし、患者の介助をスムーズにできなかった人が増えた。これは、ピクトグラムの介助方法の表示が最新なのか明確になっていないため担当看護師に確認することとなり患者の介助を中断する原因になっていたと考える。更新方法は、日勤帯は移乗介助も多くスタッフも多いため、情報共有や意見交換しやすいという理由から、日勤帯でのベッドサイドカンファレンスとピクトグラムの更新について全員が適切だと回答している。しかし、「意識が足りない」などの理由で、実際は約半数が実施できなかった。そのため、記録の見直しや毎日カードホルダーに日付を記載するなど、確実に更新することで介助を中断することなく提供できると考える。

３．ピクトグラム定着について

「今後ピクトグラムが定着すると思うか」について「思わない」が 42.1%となり、「全員に使用すれば定着する」「当てはまる対象だけだと抜ける」などの回答があり、ピクトグラムが定着していないことが明らかとなった。患者を限定したことで必要とする患者に使用されず、判断基準が複雑だったことや、アナウンスが足りなかったことが定着しづらかった原因と考える。このことから、判断基準を限定せず、全ての患者を対象とし入院時チェックリストに項目を追加していくことが必要と考える。 また、ピクトグラムに「安静度フリー」「ベッド上安静」の絵を追加することも必要と考える。

桝本らは「ピクトグラムを的確に活用するためには、目的や運用方法を周知徹底し浸透を図る必要がある。[2)]」と述べている。スタッフへ意識付けするために、ピクトグラム一覧表を目に見えるように表示し、毎日アナウンスを行うことで見る習慣、更新する習慣が身につきピクトグラムの活用につながると考える。 また、今後は看護師だけでなく、リハビリ担当者とも多職種カンファレンスで情報共有することで、より患者に適した介助方法を提供していくことができスタッフ全員のピクトグラムへの意識も高まり定着していくと考える。

Ⅶ. 結論

1. ピクトグラムを持ち運びできるように改良したことで、全員が使用しやすいと回答していた。
2. 介助ができる看護師は増えたが、介助方法を確認するために介助を中断している看護師が 42.1%であった。
3. 更新方法は全員が適切だと回答しているが、定着すると思わないが 42.1%であり、運用方法を再検討し周知徹底する必要がある。

Ⅷ. 引用文献

1) 茂木由美：簡易で安価なピクトグラム導入によるインシデント減少への取り組み、第 46 回日本看護学会論文集急性期看護、P271－274、2016

2) 桝本咲衣：ピクトグラムを使用した多職種での情報共有の効果－転倒転落予防の視点から－、P174－177、2019

Ⅸ. 謝辞

本研究の実施にあたり、調査にご協力をいただいたスタッフ、また、ご指導いただきました看護局はじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。